

文化財 だより

NO.8

発行●太田市教育委員会 発行年月日●平成22年3月31日 編集●太田市教育委員会文化財課
住所●群馬県太田市粕川町520 電話●0276-20-7090 FAX●0276-52-6080

広大な敷地

中島知久平邸の敷地は、10,000㎡（約3,000坪）を超えています。

建設

この邸宅は、中島飛行機製作所の創業者である中島知久平が、両親のために建設したといわれています。現在残されている資料では、昭和4年に設計し、翌年には主屋が上棟されています。また、昭和7年9月の撮影とされる航空写真では、庭園の整備は途中ですが、主要な建物は完成していたようです。

太田市指定重要文化財 中島知久平邸

太田市押切町1417番地



中島知久平邸全景（西上空から）

中島邸のあらまし

1 主屋

総延べ床面積が1,000㎡(約300坪)を超える主屋は、「口」の字形に配置された4つの建物で構成されていますが、性格としては、お客様と会し、もてなすための場所と中島家の人々が生活をする場所とに分けられます。外見は純和風の建物ですが、応接間の内装などは、洋風の造りです。このような一部洋風建築された建物は、「近代和風建築」と呼ばれています。

2 景色の異なる4つの庭園

庭園も大きく4つに分けられます。訪問者がまず目にする玄関前の和風庭園、緑の芝が映える客間前の大庭園、日々の生活に潤いを与える和風の中庭、そして主屋の北に広がる裏庭です。庭園のつくりや植物など、それぞれの庭ごとに異なる趣をみせています。



昭和44年の中島邸（国土地理院撮影の空中写真）



雪景色の中庭

中島邸のこだわり

1 藤づくし（「中島家」への思い）

屋根の瓦はもちろん、建具の金具や照明器具、カーテンレールの留め金具をはじめ、この邸宅のそこかしこに中島家の家紋の「下がり藤」が刻まれています。さらには、壁やカーテンなどの織物、各種照明器具の金具などに、藤の花をイメージした模様を見つけ出すことができます。



屋根の棟に連なる「下がり藤」



藤模様のカーテンボックス



ドアノブに浮き出る「下がり藤」



2間続きに開放した応接間



次の間(左)と客間(右)



ケヤキの一枚板を使った表門



玄関階段の白御影



電気ストーブの据えられた暖炉

2 開放すれば大空間

来客者をもてなすための部屋の広さは、圧巻です。玄関広間だけでも22.5畳あります。応接間は洋風の造りですが、2室を隔てる引き戸を開放すると30畳の広さに、また連続する次の間と客間とを隔てる襖を取り外すと48畳もの大広間になります。

3 吟味された素材

ケヤキの大きな一枚板を門扉に用い、柱や床の木材には節もありません。玄関の階段に使用された白御影石、応接間の暖炉や来客者のためのトイレに使われた大理石など、いずれも大きな石材を調達しています。トイレや手洗いに使われた陶器も当時の高級品が使われています。

4 時代を先取りした未来型邸宅

暖炉の中には電気ストーブが置かれています。各部屋には多数のコンセントが壁や柱に埋め込まれていることから、時代を先取った「オール電化」住宅ともいえます。また、トイレなども水洗化され、昭和初期の建築でありながら、中島知久平邸は極めて現代的（当時としては未来的）な建築といえます。

※「中島知久平邸」は、現在整備中につき、一般公開はしておりません。ご了承下さい。

史跡 金山城跡 の最新情報

金山城跡発掘調査（月ノ池南周辺）

- 調査場所 太田市金山町
- 調査期間 平成21年10月1日～
平成22年3月24日

昨年度の発掘調査は、史跡金山城跡ガイダンス施設周辺から実城域を結ぶ大手道の確認調査を実施し、実城域へ続くと思われる道が見つかりました。そこで今年度の調査は、整備の済んでいる月ノ池の東、大手虎口南西部で確認されていた木戸門より南へと続く通路を確認していくこととなりました。調査前は、谷あいの地形ということもあり、周辺から浸透した水が集まり、草も繁茂して足の踏み場もないような場所でしたが、下草を刈っていくうちに緩やかに下る通路らしき地形や、曲輪（平坦面）①、②、また石垣①や堅堀などが次第に姿を現してきました。さらに確認調査の結果、木戸門から続く南へ下る通路では、通路の縁石と思われる石列が19mほど並び、その下の曲輪面は南側に石垣が組まれ、さらにその下の曲輪面では、石敷きされた通路面や石垣②が見つかりました。そして一番南側では、堅堀に向かってしっかりと積み上げられた石垣が10mにわたり構築されていることが明らかになりました。

今回実施した発掘調査では、当時の石垣が3か所、曲輪が2か所、大手道と考えられる通路の所在が3地点で確認されました。特に一番南で確認された石垣は、積みされている石も大きく、その造りは大手虎口の周辺の石垣とほとんど変わらないものでした。このことは、大手虎口につながるこの区域が引き続き重要な拠点であったことを意味していると考えられます。今後は、この通路のより正確な位置や排水路などの配置を発掘調査によって明らかにし、通路の整備を進めていく予定です。



東から見た石列の全景



西から見た石列の全景



岩片



曲輪①出土遺物



曲輪②出土遺物



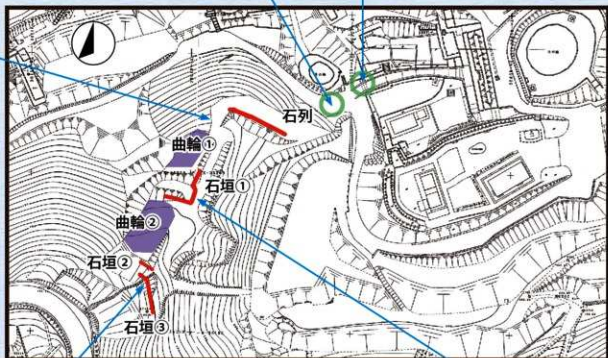
発掘調査区域と遺構配置図



以前の調査で見つかった木戸門



大手虎口



調査区の範囲と遺構配置図



石垣③の全景



石垣①全景

石垣③の一段上にあたる東側には、
竪堀や石敷きの通路面があり、虎口
(こくち)と考えられる場所が見つっ
ています。さらに石垣③の西側には角度を変えて石垣が続いているため、通路や石垣の配置を調査に
よって正確に確認する予定です。

※ 虎口…曲輪や城への入口。敵の進入に備えて幅が小さく作られている所。

現地説明会（平成22年2月27日）

説明会当日は、朝の9時まで雨が降っていましたが、開始直前に雨が上がり、予想以上の参加者数（271名）となりました。説明会は、最初に木戸門の調査時の紹介、19mにおよぶ石列の説明、中段の曲輪①、曲輪②、石敷きの通路や虎口と続き、調査区で一番南で新たに発見された大形の石垣を見て、感嘆の声が上がっていました。



石列の説明



木戸門の説明



曲輪の説明



曲輪の説明

金山城保存会

金山城保存会は、金山城跡の歴史的景観を自分たちの手で維持するために復元整備が完了した場所を中心に草刈りや清掃活動を行っています。また、啓発活動として、来訪者に金山城の案内や解説をするガイドも実施しています。平成21年度は、景観保全に向けて延べ420人の会員が竹や樹木の剪定除草作業を行うとともに、17団体、約570人の方々に金山城のガイドを行いました。その他に歴史学習の一環として、県内（渋川市・東吾妻町）や県外（小田原市）の研修を行いました。



整備地内の除草



見学者の参加状況



グループ分けでの説明



おたんの史跡探検スタンプラリー

太田市には「釜山城跡」「天神山古墳」「新田荘遺跡」「上野国新田郡行跡」などの国指定史跡をはじめ数多くの文化財が存在します。貴重な歴史遺産であるこれらの文化財を身近にふれて、郷土の歴史への理解を深めていただけるよう、昨年度に引き続き史跡探検スタンプラリーを実施しました。

期間は、小中学校の夏休み期間に合わせて平成21年7月18日から8月31日までとし、市内の文化財所在地や資料館など合計22箇所にスタンプを設置しました。参加者は、スタンプ帳とガイドマップを持ってそれらの場所を巡り、普段はなかなか訪れる機会が得たい史跡の神秘的な茂みの中などを探索しつつ各箇所を回りました。

スタンプを設置した全22箇所のうち17箇所以上を巡ると修了認定が行われ、2,541名の参加申込者の中で1,709名が修了認定されました。修了者には記念品として鷹匠埴輪の写が入ったマグネットが贈呈されました。

参加者の皆さんには、家族や友人たちとのふれあひの中で、文化財に親しみ、遠かな歴史に思いを馳せていただく機会になったのではないかと思います。



記念品（マグネット）とスタンプ帳・ガイドマップ



スタンプラリー実施状況（長楽寺）



帳帳とスタンプ設置状況（史跡釜山城跡ガイダンス施設）



スタンプラリー実施状況（天神山古墳）



文化財講演会

- とき 平成22年3月21日(日)
午後1時10分
- ところ 飯塚本町文化ホール
- 参加者 205名

平成19年5月に発見された新田郡庁跡。太田市天良町には、「日本最大規模の古代郡役所庁舎跡」が存在します。

今年度はこの国史跡「新田郡庁跡」をテーマとして文化財講演会を開催いたしました。古代の東北研究の第一人者である進藤秋輝先生をお迎えした講演と新田郡庁跡に対する市民の関心の高さから、200名を超える多くの方にご参加いただきました。また新たに作成した「新田郡庁跡パンフレット」を配布いたしました。

●基調報告①「発掘された新田郡衙」

新田郡衙発掘調査の担当者である太田市文化財課の小宮俊久が基調報告をいたしました。最近の調査で新たに確認された郡庁の正殿跡と前殿跡、また郡庁周囲における正倉跡や郡衙北限溝の発掘状況など、多くの映像を用いながらお話することができ、参加者からご好評をいただきました。



基調報告①をした小宮俊久係長代理



新田郡庁跡周辺空撮

●基調報告②「古代エミシ政策と新田郡」

群馬県教育委員会文化財保護課指導主事である小池浩平先生から、栗山道(とやまみち)・屯倉(とんくら)・エミシ政策について基調報告をいただきました。また新田郡衙を考える上で周辺に武蔵路(むさしじ)への分岐点があったことが重要であることをご指摘いただくなど興味深いお話をいただきました。



基調報告②をしていただいた小池浩平先生

●講演「陸奥国からみた新田郡衙」



ご講演いただいた進藤秋輝先生

東北歴史博物館の館長である進藤秋輝先生から、「陸奥国からみた新田郡衙」についてのお話を中心に、郡の役所であるにも関わらず国庁級の大きさをもつ、新田郡衙の重要性についてご講演をいただきました。

特に、新田郡において「関」が置かれていた可能性をご指摘いただくなど誠に興味深いお話をいただきました。

古代東北研究の第一人者である進藤先生のご講演は、豊富な知識を踏まえた絶妙な語り口による非常にわかりやすいお話であり、参加者も大変満足しておりました。



講演中風景



講演会場内風景



●企画展示

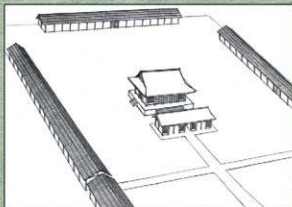
飯塚本町文化ホール^{（1）}の多目的室においてパネルを基本とした「新田郡跡周辺の発掘調査成果」の展示を行いました。

土坑^{（2）}に落とし込まれていた「正殿の礎石^{（3）}」や、

正殿跡に残された「地震跡^{（4）}」、郡庁跡の西側に集中した「正倉群跡^{（5）}」、地下レーダー探査による成果などの画像を展示いたしました。また飯塚聡氏による「新田郡庁推定復元図」も併せて展示いたしました。



講演会ポスター



新田郡庁推定復元図



展示風景

文化財めぐり

- テーマ 富岡製糸場とその周辺を訪ねて
- とき 平成21年11月29日（日）
- ところ 楽山園（甘楽町）富岡製糸場 貫前神社 群馬県立自然史博物館（富岡市）

今回は、「富岡製糸場とその周辺を訪ねて」をテーマとし、「富岡製糸場」のほか、国指定名勝「楽山園」、上野国一宮として名高い「貫前神社」、「群



世界遺産候補地「富岡製糸場」

馬県立自然史博物館^{（1）}を見学しました。

「富岡製糸場」は世界遺産候補地として今、話題となっている場所でもあるため、市民の関心も高く、例年に増して多数の応募をいただきました。また参加者の半数以上が女性であり、やはり女性の歴史・文化財への興味関心が高まりつつあることも感じました。

参加者はどの見学地においても解説に熱心に耳を傾け、充実した学習の場とすることができました。



国指定名勝「楽山園」

しきまつけのくしじつ ぐんちりょうと
 史跡上野国新田郡庁跡

- 調査場所 新田郡庁跡（太田市天良町）
新田郡街北限溝（太田市新田小金井町ほか）
- 調査期間 平成21年11月5日～平成21年12月25日
- 調査面積 約500㎡

新田郡庁跡の調査では、正殿の南側の建物跡を調査し、この建物が前殿であったことが明らかになりました。この建物跡は、東西16.8m、南北4.2mの東西に長い掘立柱建物跡です。前殿が明らかになった郡庁は全国でもほとんどなく、貴重な発見です。

新田郡街北限の調査では、地下レーダー探査という特殊な方法を使い、郡街を区画する溝を確認しました。溝は上幅4.5mという大きな溝で、新田郡街の北を区画していた溝であることがわかりました。このほかに郡庁の北側に正倉（米を貯えた倉）1棟が確認されました。

平成21年12月23日（水）には、現地説明会を実施し、年末にもかかわらず、500名近くの方々に参加していただきました。



前殿跡



新田郡街北限溝



大道東遺跡・大道西遺跡

- 調査場所 太田市東今町地内
- 調査期間 平成21年12月1日～平成22年3月24日
- 調査面積 約1,700㎡

北関東自動車道側道建設工事にもなって、県道316号線を挟んだ、大道西遺跡と大道東遺跡の2箇所で調査を実施いたしました。

大道西遺跡では、時期不明の土坑10基、ピット14基、溝3条が見つかりました。

一方、大道東遺跡では、竪穴住居跡37軒、土坑52基、ピット51基、溝3条が見つかりました。

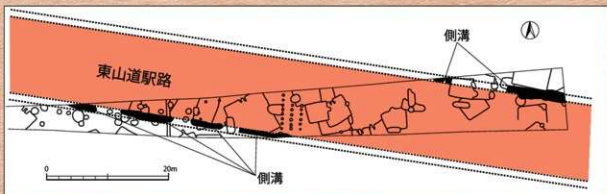
大道東遺跡で見つかった住居跡からは、土師器や須恵器の坏や甕など生活用品が出土しました。出土遺物の年代から、古墳時代後期から平安時代

にかけて村がここにあったものと想定されます。

そのほか、古代（奈良・平安時代）に都と東国を結んでいた道である、東山道駅路の側溝が見つかりました。見つかった側溝は幅1～1.2mの溝が、平行に延びているもので、溝と溝の間約11.2mの部分が道路であったと推定されます。



調査で見つかった住居跡（南から）



調査で見つかった東山道駅路

寺井廃寺

- 調査場所 太田市天良町地内
- 調査期間 平成21年7月6日～7月25日
- 調査面積 約550㎡

強戸小学校の体育館建て替えに伴って発掘調査を行いました。調査の結果、奈良～平安時代の竪穴住居跡9軒、掘立柱建物跡4棟が確認されました。調査した部分の南西に寺井廃寺があったため、寺の瓦が多量に出土し、住居跡のカマドを補強するために瓦が使われていました。また、強戸小学校の児童による体験学習が行われ、360人の子供たちが実際に住居跡の発掘を体験しました。



発掘体験学習

北之庄遺跡 (宝泉小学校)

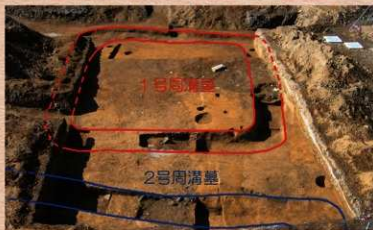
- 調査場所 太田市由良町地内
- 調査期間 平成21年10月26日
～平成21年11月6日
- 調査面積 約270㎡

宝泉小学校北校舎の建て替え工事に伴い、発掘調査を行いました。

古墳時代の方形周溝墓2基や縄文時代の土坑等が確認されました。なかでも、1号周溝墓は1辺の長さが10mの正方形になっており、溝の中から勾玉が出土しました。

また、縄文時代の尖頭器や土器が多数出土していることから周辺には縄文時代の集落があったのではないかと考えられます。

周溝墓が2基並んで確認されたことや円筒埴輪の破片が出土していることから、このほかにも古墳がある可能性があり、古墳時代には墓域であったと考えられます。



古墳時代の周溝墓（東から）



周溝墓から出土した勾玉



縄文時代の尖頭器

長楽寺遺跡 (14次)

- 調査場所 太田市世良田町地内
- 調査期間 平成21年8月3日～9月4日
- 調査面積 約211㎡

世良田小学校給食室新設工事に伴う発掘調査で中世(15世紀初頭以前)の地下式坑1基の他、中世～近世の井戸4基、土坑、ピット多数が検出されました。

地下式坑は天井部が崩落して埋まっていましたが、縦穴を掘った後に横穴を掘って方形の部屋を作っていたことがわかりました。

遺物としては、地下式坑や井戸の埋土の中から中国からの輸入品である青磁や白磁などの陶磁器や、茶臼の破片などが出土するなど、中世に広大な寺域を領していた長楽寺の当時の繁栄ぶりをうかがうことができました。



地下式坑



石組みの井戸



出土した青磁片 (酒溝壺)



城ノ内遺跡

- 調査場所 太田市大島町地内
- 調査期間 平成22年2月1日
～3月26日
(平成22年度も継続中)
- 調査面積 約3,000㎡

今回の調査は、太田病院建替え事業に伴うもので、中世にあったとされる大島城跡の西側部分にあたります。堀の跡が見つかっており、ここが城の内側であったことがわかります。この中から、中世の土坑や柱穴が多数発見されています。



中世のかわらけ出土状況

埋蔵文化財最新情報展「新田荘開発のルーツ尾島工業団地遺跡」

- 開催期間 平成22年2月27日(土)
～3月14日(日)
- 会場 太田市立新田荘歴史資料館(世良田町)
- 来場者 403名

最近発掘をした遺跡の内容や出土品を紹介する埋蔵文化財最新情報展を開催しました。

今回は、「新田荘開発のルーツ尾島工業団地遺跡」というテーマで、古墳時代(4世紀)から平安時代(11世紀)にかけての土器・住居跡の時代ごとの移り変わりを中心として展示しました。

そのほかに「古墳時代の豪族居館跡」や「土器に書かれた文字」などを展示しました。



熱心に土器を見る見学者



古墳時代の豪族居館跡出土の土器



出土遺物整理作業

文化財課では、発掘調査の成果を公開するために、出土した土器の接合・復元作業を行ったり、復元した土器の実測・写真撮影等を行い、発掘調査報告書の作成等を行なっています。

平成21年度は、前年度からの継続事業として実施している新野屋遺跡群や今井地区遺跡群、岩松千歳2遺跡、天良七堂遺跡、太田市内遺跡の整理を実施しました。

発掘調査報告書としては、「太田市内遺跡5」、「天良七堂遺跡2」、「新野屋遺跡群」を刊行しました。

また、普及事業として「太田市の古墳」・「太田市の東山道駅路」・「石之塔遺跡」・「中溝・深町遺跡」・「下田遺跡」・「尾島工業団地遺跡」のパンフレットを刊行しました。



刊行したパンフレット

確認調査

No	遺跡名	所在地 (太田市)	確認 調査月	厚田君	No	遺跡名	所在地 (太田市)	確認 調査月	厚田君
1	中江田原遺跡	新田中江田町	H21.4	民間	32	鹿戸遺跡	新田上江田町	H21.10	民間
2	久保畑遺跡	寺井町	H21.4	民間	33	田谷遺跡	東矢島町	H21.10	民間
3	家前遺跡	岩瀬川町	H21.4	民間	34	北之庄遺跡	由良町	H21.10	市
4	宮内遺跡	浜町	H21.4	市	35	宮西遺跡	東矢島町	H21.10	民間
5	FP泥流下遺跡群	世良田町	H21.4	民間	36	高林鶴巻古墳群	高林南町	H21.10	民間
6	東別所新田遺跡	東別所町	H21.4	民間	37	北明泉寺遺跡	飯塚町	H21.10	民間
7	細谷中遺跡	細谷町	H21.5	民間	38	矢場倉合遺跡	矢場町	H21.10	民間
8	溝所遺跡	石原町	H21.5	民間	39	塚廻り古墳群	龍岡町	H21.10	県
9	溝所遺跡	石原町	H21.5	民間	40	楳木野城跡	楳木野町	H21.10	民間
10	下原遺跡	新野町	H21.5	民間	41	石神遺跡	龍岡町	H21.11	民間
11	黄茂遺跡	細谷町	H21.6	民間	42	西矢島遺跡	西矢島町	H21.11	民間
12	鏡蓋遺跡	鳥山下町	H21.6	民間	43	東部地区遺跡群	壺口町	H21.11	民間
13	天良七堂遺跡	天良町	H21.6	民間	44	城ノ内遺跡	大島町	H21.11	民間
14	寺井廃寺	天良町	H21.6	民間	45	川向中西田遺跡	内ヶ島町	H21.11	民間
15	寺井廃寺	天良町	H21.6	市	46	村田・本郷遺跡	新田村田町	H21.12	民間
16	溝所遺跡	台之郷町	H21.6	市	47	天良七堂遺跡	天良町	H21.12	民間
17	FP泥流下遺跡群	柏川町	H21.6	民間	48	堀之内遺跡	西野谷町	H21.12	民間
18	新野古墳群	新野町	H21.7	民間	49	FP泥流下遺跡群	柏川町	H22.12	民間
19	窪田新田遺跡(跡地)	市場町	H21.7	民間	50	落内遺跡	吉沢町	H22.1	民間
20	宮元遺跡	由良町	H21.7	民間	51	高林西原古墳群	高林西町	H22.1	民間
21	東別所遺跡	東別所町	H21.7	民間	52	久保畑上遺跡	鳥山上町	H22.1	民間
22	川窪遺跡	藤岡久町	H21.8	民間	53	竈谷南遺跡	細谷町	H22.1	民間
23	小栗木遺跡	小栗木町	H21.8	民間	54	東定東山道駅路	東新町	H22.2	民間
24	高林鶴巻古墳群	高林南町	H21.8	民間	55	東矢島遺跡	末広町	H22.2	民間
25	高林鶴巻古墳群	高林南町	H21.8	民間	56	溝所遺跡	石原町	H22.2	民間
26	中道遺跡	鶴生田町	H21.9	民間	57	西長岡横塚古墳群	西長岡町	H22.2	民間
27	飯田古墳群	飯田町	H21.9	民間	58	高林遺跡	牛沢町	H22.2	民間
28	西田島遺跡	下田島町	H21.9	民間	59	家前遺跡	岩瀬川町	H22.2	民間
29	向矢部遺跡	置若町	H21.9	民間	60	鈴屋下遺跡(跡地)	柏川町	H22.2	市
30	目塚遺跡	内ヶ島町	H21.10	民間	61	城ノ内遺跡	八幡町	H22.3	民間
31	沖ノ林遺跡	東矢島町	H21.10	民間	62	天良七堂遺跡	天良町	H22.3	市

開発にかかわる調整

平成21年度 事前協議・照合件数および調査面積

内 容	公共事業	民間事業	計
事前照合・協議	67件	1212件	1279件
本発掘調査	6件	2件	8件
確認・試掘調査	7件	55件	62件
学術調査	2件	0件	2件
立会調査	23件	9件	32件
慎重工事	11件	151件	162件
確認・試掘調査面積	919.5㎡	2,525.5㎡	3,445.0㎡
立会調査面積	5,296.0㎡	91,722.1㎡	97,018.1㎡
本調査面積	2,858.0㎡	1,224.0㎡	4,082.0㎡
学術調査面積	2,000.0㎡	0㎡	2,000.0㎡





世良田祇園屋台修復事業

世良田祇園は、江戸の神田明神祭り・秩父の妙見祭りとともに関東三大祭りの一つとして賑わいを誇り、古くから庶民に親しまれてきた祭りです。

この祭りで巡行される8台の屋台は、世良田の上町・上新田・今井・新町・大門・南八・下町・下新田の各地区に伝わるもので、市の重要有形民俗文化財に指定されており、祭りの華となっています。

しかし江戸時代後期に製作された屋台が多く各部材の傷みが激しいため、平成18年度から修復事業を始め、今回は南八・上新田・今井・下町の4台の修復が完成しました。これで世良田祇園屋台は、全8台の修復を終えることができました。



世良田祇園下町の屋台（修復後）



世良田祇園南八の屋台（修復後）



世良田祇園上新田の屋台（修復後）



世良田祇園今井の屋台（修復後）

文化財模擬火災訓練

昭和24年1月26日に国宝の法隆寺金堂壁画が焼損したことから、毎年1月26日を「文化財防火デー」と定め、全国的に文化財防火運動が実施されています。太田市でも、毎年、この日に近い日曜日に「文化財模擬火災訓練」を実施しています。

今年度は、平成22年1月24日に東今泉町の曹源寺さざえ堂境内で実施しました。この寺の本堂は、全国でも珍しい巻貝のような内部構造をもった建築様式で「さざえ堂」と呼ばれており、群馬県的重要文化財に指定されています。

訓練は、午前10時からこのさざえ堂より出火という想定で開始、消防本部・消防団・関係者・地元住民の協力のもと、文化財の持ち出し、消火活動、救助活動などの訓練が、多数の見学者が見守る中で手際よく行われました。



新田荘歴史資料館

第1回 企画展

「新田荘の平成名宝展—新たな館の幕開けを彩る平成の新指定文化財—」と題して旧新田荘域をはじめとする太田市域の、平成元年以降に指定された県・市指定重要文化財を展示しました。

この企画展は、群馬県立歴史博物館が開催した「平成群馬の名宝展」の太田サテライト会場としての役割を担った展示でもありました。



展示の様子

期間 平成21年4月25日(土)～6月14日(日)
延べ入館者 2,467人

〔企画展講演会〕

●5月16日(土) 午後2時から

演題 新田荘の土壌を育んだ古代文化

講師 梅澤重昭先生(元群馬大学教授)

参加者数 96人

●6月7日(日) 午後2時から

演題 新田荘の名宝をめくって

講師 小此木實次先生(元太田市文化財調査委員)

参加者数 75人



梅澤先生



小此木先生

第1回 長楽寺展

第1回長楽寺展「陶磁器からみる新田荘のすがた」では、長楽寺の収蔵品を展示するとともに、史跡新田荘遺跡が所在する市内出土の陶磁器をはじめ、足利氏の氏寺である史跡榑崎寺跡出土の陶磁器等を展示し、陶磁器からみる新田荘、足利荘の地域性や階層性について考える機会といたしました。

期間 平成21年10月17日(土)～11月29日(日)
延べ入館者 1,988人

〔長楽寺展講演会〕

●11月7日(土) 午後2時から

演題 新田荘と足利荘—考古学的に比較する—

講師 大澤伸啓先生(足利市教委文化財課主幹)

参加者数 75人



大澤先生

展示の様子



特別展「おのおた埴輪フェスタ」

群馬県立歴史博物館30周年記念展「国宝武人ハニワ群馬へ帰る」の協賛事業として、「おのおた埴輪フェスタ」を開催しました。

期間 平成21年6月23日（火）～8月30日（日）
延べ入館者 4,004人



入口の様子



展示の様子

正月特別展

正月特別展として、「世良田東照宮板面着色三十六歌仙図」（原資料 群馬県重要文化財）の復元模写絵の全面公開を実施し、大和絵風に描かれた華やかな作品を鑑賞いただきました。

期間 平成22年1月2日（土）～1月31日（日）
延べ入館者 3,166人



展示の様子

教育普及 夏休み体験学習

子供たちに文化財に対する関心を抱いてもらうきっかけづくりとして、埴輪づくり教室や勾玉づくり教室を開催しました。

【埴輪づくり教室】

平成21年7月29日（水）・30日（木）

2日間かけて約30センチの武人埴輪を製作

参加者数 21人

【勾玉づくり教室】

平成21年8月19日（水）～23日（日）計5日間

参加者数 155名



埴輪づくりをする子どもたち



完成品（埴輪）



勾玉づくりをする子どもたち



完成品（勾玉）

教育普及 土曜講座

【第1回土曜講座】

●平成22年2月6日（土）午後2時から

演題 岩松氏体制の確立と新田荘再編

講師 葉瀬大輔先生（群馬県立歴史博物館学芸員）

参加者数 140人

【第2回土曜講座】

●平成22年2月20日（土）午後2時から

演題 清和源氏義国流の進出と新田荘成立

講師 須藤聡先生（群馬県立文書館指導主事）

参加者数 128人

本講座のテーマを「交通と情報のネットワーク」として葉瀬・須藤両先生から演題による講演をいただきました。葉瀬先生からは、再編された岩松氏体制が上武国境の交通機能と領域支配を結びつけた政治体制であったこ



と等を、須藤先生からは、源義国・義重父子の在京活動を通じた情報のネットワークが新田荘立荘の優位性を確保したと考えられること等、聴講者にとって有益な講座となりました。



新田荘歴史資料館案内



新田荘歴史資料館は、東毛広域市町村圏振興整備組合から移管を受けた東毛歴史資料館を名称変更して平成21年4月に開館しました。

太田市は、太古の昔より伝統文化が開けた地域で数多くの史跡や重要文化財など色濃い文化遺産を残しており、その着実な保存継承と活用が求められております。

当館では、史跡新田荘遺跡に代表される歴史



新田荘歴史資料館オープン記念式典

資料を中心に展示し、太田市の文化遺産の保存継承や愛護思想の普及に資したいと考えるものであります。

- 開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）
- 休館日：●月曜日（休日に当たる場合は翌日）
●年末年始（12月29日～1月3日）
- 入館料：個人200円 団体160円（20名以上）
※中学生以下は無料となります。
- HP <http://www.12.wind.ne.jp/tomohm/>

縁切寺満徳寺資料館

縁切寺満徳寺資料館案内



復元された本堂

縁切寺は江戸時代、夫の不法に泣く女性を救済して、夫との離婚を成立させる避難所（アジール）でした。最終的に幕府（国家）権力を直接の後ろ盾として離婚を強制する制度はほかにありません。ですから満徳寺は鎌倉の東慶寺とともに「世界に2つの縁切寺」だったので。旧尾島町ではその文化的・歴史的意義を高く評価して、資料館とその後本堂を復元、旧境内を整備しました。

桜の開花に合わせてライトアップを行っていま



す。期間中は、駆け込み門を開放し、抹茶接待も行いました。

- 開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）
- 休館日：●月曜日（休日に当たる場合は翌日）
●年末年始（12月29日～1月3日）
- 入館料：個人200円 団体160円（20名以上）
※中学生以下は無料となります。
- HP <http://www.8.wind.ne.jp/mantokuji>



緑切寺満徳寺資料館 徳川大学公開講座

資料館では一般市民を対象とした公開講座に所在地名「徳川」を冠して、徳川大学として実施しています。講座のテーマは江戸時代と男女同権です。

第1回 公開講座

- とき 平成21年4月29日（水・昭和の日）
午後2時開演
- ところ 緑切寺満徳寺復元本堂
- 講師 緑切寺満徳寺資料館長 高木 侃
- 参加者 41名
- 演題 「世界に二つの緑切寺Ⅲ」

第2回 公開講座

- とき 平成21年5月17日（日）
午後2時開演
- ところ 世良田行政センター
- 講師 茨城大学准教授 磯田道史先生
- 参加者 43名
- 演題 「武士の家計簿に見る幕末維新の待たち」



磯田道史先生

第3回 大衆文化講座 落語

- とき 平成21年5月29日（金）
午後6時30分開演
- ところ 緑切寺満徳寺復元本堂



柳亭市馬師匠



柳亭市丸さん

●演者・演目

柳亭市馬師匠「片棒・禁酒番屋」
柳亭市丸さん「転失気」

- 参加者 143名

第4回 公開講座

- とき 平成21年9月27日（日）
午後2時開演
- ところ 緑切寺満徳寺復元本堂
- 講師 法政大学講師・学術博士 小泉吉永先生
緑切寺満徳寺資料館 高木 侃館長
- 参加者 29名
- 演題 「往来物の中の用文章の位置」
「用文章にみられる三くだり半の書式」



小泉吉永先生



高木 侃館長

第5回 伝統文化講座 琵琶

- とき 平成21年10月25日（日）
午後6時開演
- ところ 緑切寺満徳寺復元本堂
- 演者 錦心流中谷派 荒井姿水先生
箏曲 仲林光子先生・畠山千恵子先生
みさと笛 仲林利恵先生
- 参加者 125名
- 演目 「経正」「復寛」「須磨の秋」ほか



荒井姿水先生（左） 仲林光子先生・仲林利恵先生（右）



第6回 公開講座

- とき 平成21年11月14日(土)
午後2時開演
- ところ 世良田行政センター
- 講師 武蔵野学院大学副学長・五代目埋木會当主
大久保治男先生
- 参加者 108名
- 演題 「文化人・井伊直弼と埋木會一茶人の
側面にふれて」



大久保治男先生

第7回 大衆文化講座 落語と講談

- とき 平成21年11月28日(土)
午後1時30分開演
- ところ 宝泉行政センター
- 演者・演目 柳家はん治師匠「子ほめ・ろくろ首」
宝井琴調師匠「祖徠豆腐・赤垣源
藏徳利の別れ」
- 参加者 231名



柳家はん治師匠



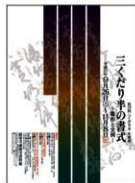
宝井琴調師匠

特別展・三くだり半企画展

平成21年度開催企画展

資料館では、かつて縁切寺であったことから「三くだり半」をテーマとした企画展をこれまでに23回、特別展を11回開催しました。

- 第22回三くだり半企画展「三くだり半の仲人」
一甲州・上州の事例を中心にー
期間 平成21年4月25日(土)～6月7日(日)
- 第23回三くだり半企画展
「三くだり半の書式」一雛形と実例ー
期間 平成21年9月26日(土)～11月8日(日)
- 特別展「妻からの離縁状」
期間 平成21年12月15日(火)～22年1月17日(日)



資料館主催講座 (講師：縁切寺満徳寺資料館長 高木 侃)

ボランティアガイド養成入門講座

- とき 平成21年6月4日(木)、11日(木)、
25日(木) 午後2時から
- ところ 縁切寺満徳寺資料館館長室
- 参加者 8名

三くだり半連続講座

- とき 平成21年10月1日(木)、15日(木)、
29日(木) 午後2時から
- ところ 世良田行政センター
- 参加者 延べ35名



高山彦九郎記念館

高山彦九郎記念館講演会

- とき 平成21年6月7日(日)
午後1時30分～午後4時30分
- ところ 宝泉行政センター 多目的ホール
- 講師 島田 洋 先生
- 演題 「利根川と旅一人と物資の流れー」
- 参加者 147名



講師：島田洋先生

今回は昨年度に引き続き、平成19年度に確認された高山彦九郎の未公開日記「利根路の秋旅」に関連し、元千葉県立関宿博物館学芸員で、群馬県事業「水辺の回廊研究委員会」委員としても活躍されている島田洋先生に「利根川と旅一人と物資の流れー」と題してご講演いただきました。

「利根川」という身近な題材に来場者の関心も高いようでしたが、彦九郎の旅路や当時の利根川の賑わいが再現されるような講師の解かり易く丁寧な解説により大変満足いく講演会とすることができました。



画像を利用したの解説

高山彦九郎記念館学習会

- ▶学習会
 - とき 平成21年8月22日(土)
 - ところ 高山彦九郎記念館
- ▶視察
 - とき 平成21年9月3日(木)
 - ところ 松戸市立博物館 柴又帝釈天 中川
船番所資料館 亀戸天神

今回の学習会は、昨年度に引き続き新発見の高山彦九郎資料「利根路の秋旅」の中から、船旅の後半部、関宿から日本橋の足跡について読み解くものでした。

8月22日(土)に実施した学習会では、高山彦九郎研究会、正田会長を講師に、彦九郎の旅程を学び、9月3日(木)の視察では、松戸市立博物館、柴又帝釈天、中川船番所資料館、亀戸天神を見学しました。それぞれの見学地から、江戸時代の利根川流域の発展の様子や江戸の優れた文化を知ることができました。



柴又帝釈天



中川船番所跡(小名木川)にて

高山彦九郎記念館案内



高山彦九郎は上野国新田郡細谷村（現太田市細谷町）で生まれた江戸中期の勤王思想家で、後世の明治維新を導いた幕末の志士たちに大きな影響を与えた人物です。

江戸・京都・細谷（現太田市）を拠点として全国各地を遊歴し、学者・文化人だけでなく、公家や諸国の藩主・武士・神官・農民など様々な人々

- 開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）
- 休館日：●月曜日（休日に当たる場合は翌日）
●年末年始（12月29日～1月3日）
- 入館料：個人100円 団体80円（20名以上）
※中学生以下は無料となります。
- 交通のご案内
 - 東武伊勢崎線細谷駅下車徒歩10分（800m）
 - 東武伊勢崎線太田駅下車タクシー10分（5km）
- 駐車場：普通車23台（バスも駐車可能）

と交流しました。

彦九郎の思想と情報は、地域や階層を越えて伝わり、日本の歴史を動かす原動力ともなりました。この記念館は、高山彦九郎を再評価し、その人物像を広く知っていただくため、平成8年5月3日に、国指定史跡・高山彦九郎宅跡附遺塚の隣接地に開館しました。

藪塚本町歴史民俗資料館

藪塚本町歴史民俗資料館案内

- 開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）
- 休館日：●月曜日（休日に当たる場合は翌日）
●年末年始（12月29日～1月3日）
- 入館料：個人100円 団体80円（20名以上）
※中学生以下は無料
- 住所：〒379-2301 太田市藪塚町149
- TEL：0277-78-5728



当館は、藪塚温泉今井館主であった今井新次氏が、県内外から収集した埋蔵文化財などを旧藪塚本町に寄贈したことにより、昭和53年に開館しました。

石田川式の型式資料となった土器や街道構古墳の陶棺、市内から出土した各種埴輪、その後の発掘調査で出土した石之塔遺跡（縄文時代後・晩期）の土製耳飾や岩版のほか養蚕関係を中心とした民具を展示しています。

現在、常設展示の一部を変更し、「新田郡庁跡周辺関係資料」を展示しております。また「太田市の古墳」等の文化財紹介映像を上映しております。

入館された方にはご希望により、各種パンフレット等を差し上げます。以前入館された方も再度、入館されてはいかがでしょうか。



新田郡庁跡中央部の空堀（上：正統記遺構、下：発掘配置）



史跡 金山城跡 ガイダンス 施設

オープニングセレモニー

平成21年5月30日(土)9時からオープニングセレモニーが行われました。開館当日は、雨が降っていましたが、1階のコミュニティルームに関係者が一同に会して落成式が盛大に行われました。



落成式テープカット

体験学習

体験学習室では、竹細工やそりづくりをはじめ、そばづくり、ミニ門松づくり等体験を重視した教室が開催されました。教室開催後、サークルとして活動を始めているケースも見られました。

お茶やそば、うどんについても、栽培・育成・粉引きなどの工程ができるようと考えています。



ミニ門松づくり



そりづくり



竹細工



そばづくり

歴史講演会

第1回 金山歴史講演会

- とき 平成21年9月27日
- ところ コミュニティルーム
- 講師 峰岸純夫 先生
- 演題 戦国時代の東上野
一長楽寺永祿日記に見る一
- 参加者 97名



峰岸純夫先生



原勝慎一先生

第2回 金山歴史講演会

- とき 平成22年1月17日
- ところ コミュニティルーム
- 講師 原勝慎一 先生
- 演題 金山城研究の最先端
一戦国・織豊時代の石垣普請一
- 参加者 94名

第1回、第2回とも多数の参加者を迎え、コミュニティルームが満席となりました。講演会を通して金山城の歴史について、新たな発見や最新の情報などを学習することができました。

ギャラリー展示

オープニング記念として、5月から7月までと11月から12月の2回に分けて、人間国宝であった飯塚小疋齋先生いひづか せうしやうの作品展示を実施しました。また、先生の娘さんである飯塚万里さんいひづか まりからは「竹に生きた父の人生」という演題で講演会を、お弟子さんの大木淑恵さんおほき しゆゑには、体験学習室で実演をしていただきました。



飯塚万里さん



過 籠



ギャラリー展示の「天漏」



大木さんによる竹工芸の実演

〈主な展示内容〉

- 9・10月 金山に集うグループ活動展
- 2・3月 金山スケッチ画展

史跡金山城跡ガイダンス施設・金山地域交流センター案内

- 開館時間：9:00～17:00
- 休館日：●月曜日（休日に当たる場合は翌日）
●年末年始（12月29日～1月3日）
- 入館料：無料
- 住所：〒373-0027 太田市金山町40-30
- TEL：0276-25-1066・1067



金山地域交流センター正面入口



史跡金山城跡ガイダンス施設入口

おかげさまで、平成21年5月30日から3月31日までの期間で、32,752名の来館者を迎えることができました。